

ビワ生育情報

第 8 報
千葉県農林水産部
令和 6 年 5 月号

5月1日時点での幼果の発育は、「楠」、「大房」、「田中」とも平年より早く、収穫期は平年より早いと予想されます。収穫の準備を早めに進めましょう。

果実の発育

5月1日現在のビワの果径を表1に示した。横径は「楠」が3.93cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ4.00cm、3.44cmであった。平年と比較すると「楠」は132%、「大房」は134%、「田中」は126%であった。

縦径は「楠」が4.57cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ4.25cm、4.03cmであった。平年と比較すると「楠」は143%で、「大房」は138%、「田中」は134%であった。

果形指数は「楠」が0.86、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.94、0.85であった。本年の果径指数は「楠」、「田中」は平年より小さく縦長の傾向、「大房」は平年並みである。

果実の発育は、3品種とも平年より早く推移している。今後の気象にも影響されるが、収穫期は平年より早いと予想される（各品種の平年値は前年の7月号を参照）。十分に肥大する前に着色が始まる場合もあるので、収穫適期を逃さないよう注意が必要である。

表1 果実の発育（5月1日の果径）

品種	調査地点	横径 (cm)			縦径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	3.93	2.97	3.62	4.57	3.21	4.03	0.86	0.93	0.90
	青木	3.88	3.04	3.87	4.10	3.12	4.03	0.95	0.97	0.96
	南無谷	4.17	3.06	3.86	4.56	3.14	4.27	0.91	0.98	0.91
	暖地園研	3.95	2.89	3.72	4.08	3.00	3.71	0.97	0.96	1.00
	平均	4.00	2.98	3.82	4.25	3.07	4.00	0.94	0.97	0.96
大房	青木	3.31	2.76	3.37	3.85	3.04	3.66	0.86	0.91	0.92
	南無谷	3.23	2.75	3.50	3.82	3.05	3.95	0.85	0.90	0.84
	暖地園研	3.77	2.74	3.50	4.40	3.00	3.92	0.86	0.91	0.89
	平均	3.44	2.74	3.45	4.03	3.01	3.84	0.85	0.91	0.88
田中	青木	3.31	2.76	3.37	3.85	3.04	3.66	0.86	0.91	0.92
	南無谷	3.23	2.75	3.50	3.82	3.05	3.95	0.85	0.90	0.84
	暖地園研	3.77	2.74	3.50	4.40	3.00	3.92	0.86	0.91	0.89
	平均	3.44	2.74	3.45	4.03	3.01	3.84	0.85	0.91	0.88

果形指数：横径／縦径

平年：平成6年～令和5年の30年間の平均

南無谷は平成10年～令和5年の26年間の平均

令和6年4月の気象

令和6年4月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は全半旬で平年よりも高く推移した。月平均気温は16.6℃で、平年より2.1℃高く、前年より0.1℃高かった。

降水量は第1、第2、第4、第5半旬は平年より多く、第3、第6半旬は平年より少なかった。月合計は184mmで平年の117%、前年の135%であった。

日照時間は第3、第4半旬は平年より多く、その他半旬は平年より少なかった。月合計は133時間で平年の75%、前年の64%であった。

表2 令和6年4月の気象(アメダス館山市)

半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	14.5	12.5	13.6	31	28	4	11	30	42
2	15.1	13.4	15.8	63	28	18	16	30	40
3	15.2	14.1	17.4	1	27	60	38	29	31
4	17.8	14.9	18.0	29	26	2	33	28	43
5	17.3	15.6	15.4	47	24	0	11	30	21
6	19.6	16.4	18.7	13	23	52	26	31	31
平均/計	16.6	14.5	16.5	184	156	135	133	177	207

平年：平成3年～令和2年の30年間の平均

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

6月の作業

例年であれば6月前半には梅雨に入り曇雨天の日が多くなる。5月から収穫が続き、晩生の「田中」でも6月中下旬には終了する見込みである。品質の良い適熟果を出荷し、市場や消費者の信頼を得るように心がけたい。

果樹カメムシ類の予想発生量が多いとされている(令和5年度病害虫発生予報第11号(令和6年3月13日))。例年果樹カメムシ類の被害が少ないほ場でも被害が多発する可能性があるため、園内外をよく見回り、飛来がみられた場合には、千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って防除を行う。

夏肥(礼肥)は収穫後の樹勢の回復及び夏枝の伸長と花芽分化を促すために必要である。収穫直後に速効性肥料を施用する。10a当たりの施肥量(成分量)は、耕土の浅い園で窒素5kg、りん酸4kg、加里4kg、耕土の深い園でそれぞれ5kg、3kg、3kgを目安とする。

台木の播種は、梅雨明け前に発芽させるように、早めに行うことが肝要である。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室

電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>